

女性に対する暴力をなくす運動

毎年11月12日から25日までの2週間は「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間です。

女性に対する暴力とは、配偶者などからの暴力(DV)、性犯罪、売買春・人身取引、セクシャル・ハラスメント、ストーカー行為などがあり、こうした女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

女性に対する暴力のうち、DVは、夫や恋人など親密な男女間で起こるため、外部からの発見が困難なケースが多く、被害が深刻化する傾向にあります。

<p>性的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性行為の強要 ・避妊に協力しない 	<p>身体的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殴る、蹴る ・物を投げる ・首を絞める
<p>経済的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活費を渡さない ・服などを買わせない 	<p>精神的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒鳴る ・人前で侮辱 ・電話内容を細かくチェック

DVの例

DVには左上の表のような行為が見られ、中には気付かないうちにDVの加害者になっていたという人も少なくありません。暴力は体にも心にも大きなショックを与えます。被害に遭ったとき、自分が悪いからと自分を責めたり、被害を受けたことを恥だと思ったりするかもしれません。しかし、どんな事情があったとしても、暴力を振るっていいという理由にはなりません。

誰かに話すのは勇気のいることかもしれませんが、相談することで心が少し軽くなったり、解決の糸口が見つかったりすることもありません。一人で悩まずに、まずは相談してください。

岐阜県女性相談センター・
配偶者暴力相談支援センター
☎058-274-7377
月～金 9:00～21:00
土日祝 9:00～17:00
☆緊急の場合は近くの警察署
や110番に連絡してください。

健康ほっとLine

—市立総合病院の医師が健康に関する情報をお届けします—

前立腺がんの診断

泌尿器科部長

金井 茂 医師

前立腺は膀胱ぼうこうの下方で尿道を取り囲むように存在し、クルミのような形をしています。年を取るにつれて肥大したりガンになったりすることがあります。1980年代に前立腺特異抗原(PSA)という酵素が前立腺ガンの診断に利用されてから、多くの早期前立腺ガンが発見されています。PSAは前立腺の細胞が産生し、精子を自由に活動させて授精の手助けをします。正常な人でも、少量のPSAがナノグラム(10億分の1グラム)の単位で血液の中に漏れています。前立腺にガンができると前立腺が破壊されるので、PSAの血中への漏れが増大して異常値を示します。PSAの正常値は4.0ng/ml以下です。それ以上にPSAの値が上昇すると、前立腺ガンがある可能性が高くなります。PSAが①4・1～10・0では25%②10・1～20・0では35%③20・1～50では50%④50・1以上では90%以上⑤100以上ではリンパ節や骨に転移を起こしている可能性がります。PSAの上昇は、ガンだけでなく前立腺肥大症や前立腺の炎症でも起こり、炎症ではPSAが100以上に上昇することがありますが、炎症が治

まれば低下します。PSAで前立腺ガンの可能性を判断する場合は、期間を置いた二時期に採血し、PSAの推移をみることをお勧めします。PSAが下降すればガンの可能性は低く、上昇すればガンを否定できません。

前立腺は直腸の前方にあり、数ミリメートルの直腸壁を隔てて指で触れることができます。早期の前立腺ガンは、正常組織との境界がないため画像診断では判断できません。前立腺生検を行い診断します。超音波監視下に針を使用して6～12カ所の前立腺組織を採取し、病理診断を行います。直腸には大腸菌がたくさん居ますので、前立腺生検時には薬剤による感染予防を行います。当院では、年間40～50例の前立腺生検を行い、約20例の前立腺ガンを診断しております。前立腺ガンと診断された患者さまのショックは計り知れないものです。しかし、ご安心ください。前立腺ガンは、他のガンと違い進行が非常にゆっくりで、病気の進行度に合った治療を選択すれば、早期のガンは消滅し、骨やリンパ節に転移のあるガンは、特別な場合を除き、長期にガンと共存できます。